

<b>危険防止のための注意</b>	備考
<p><b>①射場にて</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・個人練習時に矢をしたときは、処理のために射位よりの前方向に出る前に、必ず前後の安全を確認する。</li><li>・的を見ない状態で離さない。</li><li>・引き込み防止のため、自分の引き尺を知り、安全な長さの矢を使用する。</li><li>・初心者は大前と落の的で行射するのは避ける。</li></ul> <p><b>②矢取時</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・落の取懸け後は矢取道に出ない</li></ul> <p><b>③その他</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・矢先は人に向けない。また、矢を持つときは人にあたらないように注意をする。</li><li>・弓矢を持った状態で走らない</li><li>・弦を張る時は周りに注意する。</li><li>・巻藁練習で矢をぬくときは前後で行射している人がいないことを確認する</li></ul>	<p>鏡を見ながら離したり、馬手の状態を確認するために行射中に顔むけを後ろにすることも大変危険である。</p> <p>初心者は引き尺が安定しないのでより長め（引き尺 + 10cm以上）の矢尺にする。</p> <p>矢の飛んでいく方向が安定するまでは危険である。</p> <p>特に看的所から戻る時は、落の射手の状況を確認する。</p> <p>執弓の姿勢をとるとき、後ろに人がいると目をつく可能性もある。</p>

<h2>道具の取り扱いにおける注意</h2>	<h2>備考</h2>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・弓、矢、弾を人の通る床に置かない、またがない。</li> <li>・弓は弦を張ったまま弓庫に置いておかない。 また、道場に置いておける弓、矢筒は一人一つずつ。</li> <li>・空箭を防ぐため、中仕掛けの調整を怠らない。</li> <li>・弓弰の高さ、弦輪の大きさを適正に。</li> <li>・弓は弦を張らない状態では関板部分が非常に弱いので注意する。</li> </ul> <p><b>◎ 矢取時の注意</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・できるだけ2名以上で行う</li> <li>・羽部分までの的に刺さってしまったときは先に的を射場方向に抜く</li> <li>・的枠に刺さり抜けにくい矢は、無理せず的ごと看的所に持ちかえり、矢の持ち主に処理を任せる。</li> <li>・寝矢、的に立っている矢、矢道に落ちた矢などは、速やかに本人が取りに行く。</li> <li>・矢が多く一度に拭けないときは矢箱を利用して分けて拭く</li> <li>・土やもみ殻をはらうためにもみ殻箱や机の端で矢をはたかない</li> <li>・矢を拭くとき、箭・矢尻の異常も確認する。</li> </ul>	<p>誤って人に踏まれると破損する。 作法上もしない方がよい。</p> <p>道場によって違うが、当会ではこのようにする</p> <p>常に箭こぼれしない太さに保つ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・弓弰は15cm前後がよいとされる。弓弰が低いと、弓が裏返って弓の破損につながったり手や顔を打ちやすくなる。高いと角見が利かせにくくなったり、弓が大きく湾曲することになるので破損につながる</li> <li>・弦輪が大きいと弓が裏返りやすい。小さいと弦切れを起こしやすい。</li> </ul> <p>関板部分をあてたり持ったりすると簡単に破損する。</p> <p>安全確認、矢の数が多い時、的枠が外れた時、的枠にささった時、矢道に矢がある時、などの事態に対応しやすいように。</p> <p>寝ている矢、立っている矢がある場合は、破損の恐れがあるので次の人は行射しない。</p> <p>箭、矢尻がなくなっていないか、土が残っていないかの確認。</p>